

8. さまざまな熱中症対策の取組事例

総務・企画部局

事例6. 新潟県南魚沼市 運動後の選手の熱中症予防

- 1年の中で特に気温が高い10日間(7月29日～8月7日)に長岡技術科学大学と連携し、運動公園の一般利用者及び中体連、高体連の大会参加者へ熱中症予防の普及啓発を実施。
- 雪の冷熱を利用した**クールダウンスポット**を常設し、**スノーパック**を配布して運動後の選手等の熱中症予防に寄与。



▲雪冷熱によるクールダウンスポット

熱中症の発生を抑制させるため、雪の冷熱を利用した冷房により室内を冷やしたテントを常設することで、運動後の選手等がクールダウンに活用した。

テント内に雪を利用した空調装置を4台設置し冷却した。空調装置1台あたり500kgの雪を1つのフレコンバッグに詰め、雪冷熱による冷風をホースを通してテント内への供給を行った。

スノーパックによるクールダウン▶

クールダウンスポットの横で常時スノーパックを配布した。パックには熱中症警戒アラートのメール登録を促すQRコードを印刷している。



■苦労した点

真夏日や猛暑日に屋内外のスポーツ施設を利用する方は、「夏は暑いもの」という前提で利用されている傾向が強く、熱中症対策の必要性が伝わりにくいため、きっかけづくりに苦労した。

■工夫した点

熱中症対策の必要性を伝えるきっかけとして、雪を利用した取組を行ったが、スノーパックの配布は「映え」効果があり、利用者が利用者を呼んで普及啓発に役立った。